

地球温暖化

渡邊真子・梅津有里・梶原奈々星

今世界では多くの問題があり、これからの世界に難題を残しています。その中で、私たちのチームは地球温暖化に焦点を当てて考えていきたいと思えます。工場の稼働や、各家庭で多くの電気を使用することで、化石燃料（石油や石炭、天然ガス）を燃やして大量のCO₂が排出され、エアコンなどに使われるフロン^①の排出により、CO₂を吸収する森林を伐採することで温度効果ガスがさらに増加し、地球の平均温度が上がってきています。この平均温度が上がっていく現象のことを「地球温暖化」と呼びます。

地球温暖化は私達へどのような影響を及ぼすのでしょうか。その例を少し紹介したいと思います。

地球温暖化によって気温が上昇すると、氷河や南極などの氷が解けて海に流れ出します。また海水自体が温められ、海面が上昇します。ここ100年間で、世界の平均の海面の水位はおよそ17センチも上昇したと言われていています。今後さらに海面は上昇し続け、今水没しかけているベネチアやツバル、モルディブ、バングラデシュなどの様々な国に被害をもたらすと言われていています。また、高山や南極の氷が溶けることでその地域に住む動植物の絶滅が進み、動植物の生息域が北へ広がっていくという現象が起きています。他にも、ヒラヤマ山脈では氷河が小さくなっていて、今後ヒマラヤ山脈の下域に住んでいる人々は水不足に直面し、農業に大きな被害をもたらされるかもしれません。地球温暖化は異常気象、巨大台風やハリケーン、地震、洪水、気温上昇などを引き起こしています。日本では以前より多くの竜巻が発生しています。このような気候の変化は私たちの生活や社会での経済に悪い影響を引き起こします。私はこの変化が私たちの体に損害を与えるかもしれないと思っています。私たちは普通に雨が降っている、台風がきていると思っています。本当はそれは地球が悲鳴をあげているのかもしれませんが。私たちが知らない所で地球温暖化は進んでいるのです。

次に、政府が行っている地球温暖化対策について紹介します。日本は、1998年に「地球温暖化対策推進大綱」を決定しました。「地球温暖化対策推進大綱」は、2010年に向けて急いで進める必要がある地球温暖化対策として策定されました。「地球温暖化対策推進大綱」が決められ、「地球温暖化対策推進法」、「地球温暖化対策に関する基本方針」などがつくられ、日本国内の対策の基礎的なルールが決められました。2002年に具体的な推進施策が定められて見直された「地球温暖化対策推進法」の内容を説明したいと思います。まず、“国の役割”として定められている内容についていくつか紹介します。①温室効果ガスや気候の変化、生態などの観測を行うこと。②地球温暖化を防止する対策を考えその対策を行うこと。など、様々なものがあります。さらに、“国民の役割”としては、①日常生活の中で温室効果ガスをなるべく出さないようにすること。②国や県、市町村が進める対

策に協力することなどがあげられています。私が通っている学校でも、二酸化炭素削減のために植物を植えて緑のカーテンを作ったり、緑の羽根募金に参加したりと、地球温暖化防止のために色々な活動を実施しています。私の学校のように、環境問題に積極的に取り組む学校が増えることを願っています。

世界の国では、地球温暖化防止のために様々な対策を行っている国が沢山あります。今からその中でも特に積極的に取り組んでいる2つの国の活動について紹介したいと思います。

まず、はじめに紹介する国はスウェーデンです。スウェーデンは世界で最も二酸化炭素排出量が少ない国と言われています。通勤や通学の際は徒歩や自転車を使う人、または風力発電の電車、バイオガスを使用した市内のバスを使用する人がほとんどだそうです。バイオガスのマイカーで通勤している人もいますが、ガソリンを購入すると二酸化炭素税が料金に加算されてしまうため、ガソリン燃料の自動車を使う人はほとんどいないそうです。他にも、50年も前から行われているゴミの有料化、ゴミを100種類まで分類する、など様々な対策が実施されています。家庭ゴミのリサイクル率も約96%と高く、スウェーデン国民の環境に対する意識の高さがわかります。

次に紹介するのは、EU最大の都市であるイギリスのロンドン市です。ロンドン市はとても大胆な温暖化対策を次々に打ち出し、世界から注目を集めています。市内に乗り入れる自動車に一日10ポンド（約1,370円）もの渋滞税を課税して自動車の利用を減らす、市が各家庭に省エネ専門家を派遣し対策をアドバイスする“緑のコンシェルジュサービス”の実施、太陽光やゴミを使ったバイオマス発電所の設置など、大胆かつ積極的に地球温暖化防止対策に取り組んでいます。ロンドン市は持続可能な低炭素都市を目指しています。イギリス政府が2030年までに二酸化炭素50%を目指そうしている中で、ロンドン市はそれよりも5年も早い、2025年までに削減目標60%を達成しようとしているというのだから驚きです。このように世界では地球温暖化問題に積極的に取り組んでいる国や市が沢山あります。特にロンドン市は徹底的に地球温暖化問題に取り組んでいて、非常に驚きました。では、どのような対策を実施すれば地球温暖化緩和につながるのでしょうか？

私たちは家や学校や地域の中でReduce、Reuse、Recycleの取り組みをしています。私たちの市ではゴミを9つに分別してできるだけゴミを減らしリサイクルするようにしています。家では電気はこまめに消し、エアコンの温度を控えるようにしています。節電をするだけでなく、最近は太陽光発電を設置する家が増えました。水の節約にも気をつけています。歯を磨くときに水を出しっ放しにしないとか風呂の残り湯を洗濯に利用したりします。お皿を洗うときに洗剤の量を減らすために、毛糸で編んだスポンジを使っている人もいます。買い物をするときにはエコバッグを持って行き、できるだけエコマークが付いているものを買うように心がけています。

これらの取り組みは多くの家庭でされている取り組みですが、今日はみなさんに私たちが考えたユニークな対策を紹介したいと思います。一つ目のアイデアは、買い物をしたときにそれぞれのお店からもらう袋を捨てずに何度も利用するようにして買い物袋の無駄をなくす。というものです。日本では買い物をした時にももらう紙袋をマイバックとして持つことが、特に若者に人気です。カバンには貴重品を入れ、その他のものを紙袋に入れます。特に荷物が多い時に便利です。最近では布で作られたものもあり、紙袋よりも頑丈で何度も使えるので、エコで便利です。最近では、エコバックという買い物をする時に買い物袋の代わりに使用するバッグも販売されていて、とても人気です。デザイン性が高いものが多いのに加え、紙袋よりも頑丈で何度も使用できることが魅力的です。

二つ目のアイデアは、インドネシアでも問題になっている森林伐採を減らすために“森林伐採税”という制度を導入するという事です。木一本伐採するごとに森林伐採税が課せられ、その税金でまた新しい木が植えられるという制度です。

最後に、光合成をするマシーンを発明できたらいいなと思います。緑が少なく人が多い都会のビルなどに設置すれば空気がきれいになってみんなが元気になると思います。

地球温暖化は自分たちの国だけの問題ではなく、世界全体の問題です。今回、地球温暖化について様々なことを調べて、発展途上国や先進国の間でCO₂の排出量をお金で取引することができる、排出取引制度という制度があるということを知りました。日本でも2008年から試行運用が行われています。こんな制度があるなんて非常に驚きました。この制度はお金を払って他の国に頑張ってもらえばいい、他の国に頼ればいい、などという考えが少なからずあったからこそ作られたものではないかと私は思い、とても悲しくなりました。お金で解決をしようとするのではなく、世界各国が協力し合って解決に近づいていくべきだと思います。解決のためには、ヨーロッパなどの地球温暖化に力を入れている国のように、各国がそれぞれ地球温暖化に対して危機感を持ち、国民が大いに国の政策に協力しなければなりません。地球温暖化は私たち人間のせいで起こってしまった問題です。未来の地球のためにも、私たちが責任をもって解決していかなければならないと思います。若い世代の私たちが、学校や機関を通してすこしずつでも考え方を変えていかなければならないと思います。私たちのように地球温暖化について興味を持つ人が増え、この問題が一日でも早く解決するように私たちユースが一緒になって頑張りましょう。